

[WCC 釜山総会]

"WEA・国際ローザンヌなどとのネットワークを構築する"

エキュメニカル・カンヴァセーション報告

「国民日報」

2013.11.07 22:02

<http://p.tl/tNqA>

WCC 釜山総会内では様々なテーマに分かれて継続的な対話を積み重ねる「エキュメニカル・カンヴァセーション」が開催された。この対話によって、WCC と世界福音同盟 (WEA) や国際ローザンヌ福音運動 (ローザンヌ運動) などの間でネットワークを構築し、そのネットワークにペンテコステ系の諸教団も積極的に参加できるような配慮をしなければならない、という要求が提出された。

21 のテーマで行われた「エキュメニカル・カンヴァセーション」は、全世界の教会が直面している問題を議論するために、総会代議員だけでなく一般の参加者にも参加を呼びかけて、毎日一時間半ずつ 4 日間行われたプログラムである。エキュメニカルなコンセンサスがここに醸成されるため、今後 WCC の方針に重要な影響を及ぼすことになる。WCC プログラム委員会がエキュメニカル・カンヴァセーションの報告書を作詞し、本会議がこれを採択して、WCC 中央委員会がフォローアッププログラムを推進することになっている。

11 月 7 日に WCC プログラム委員会が作成した報告書によると、21 のテーブルトークが「教会一致と教会の役割」「正義・平和・生命」「宣教」「教育・霊性」「女性」「礼拝」の 6 つの分野で行われた。

「教会の一致」分野への参加者は、個別の教会が移住・紛争・経済不安・気候変動の問題に対応して正義と平和を追求し、創造の秩序維持に注力するために、よりオープンで柔軟性の高いネットワークが必要だとする要請をまとめた。そして、そのために、WCC が WEA、グローバルクリスチャンフォーラム、国際ローザンヌ、ペンテコステ派教会、独立教会などに対して開放的な姿勢を堅持し、積極的な協力関係を構築して神学的対話を展開すべきだとした。

「正義・平和・生命」の分野への参加者は、神学校と聖職者たちによって、世界の教会が直面している問題に対して排他主義的な姿勢を越える代案を提示することができるはずだ、と述べた。特に、気候変動・生態系に関する正義・暴力的と武器・貪欲な国際金融・人身売買・移住労働者と無国籍者への人権蹂躪、迫害される教会の状況、等について、人類が道徳的な分別を弁えることができるように訓練すべきだと強調した。朝鮮半島問題では停戦協定を平和協定に変えるため、韓半島周辺の強大国が一致して貢献しなければならない

と促し、南北の教会の出会い、離散家族の再会を求めた。中東問題を解決するために、反イスラム的偏見を細心の注意を以て拒否した上で、非暴力抵抗運動を展開することが大切であると確認し、WCC 第 11 回総会を中東地域で開催することを要請した。

「宣教」の分野への参加者は、「伝道」と「平和・正義」の関係を議論し、新たな弟子像を確立することを求めた。

「教育・霊性」の分野への参加者は、健全なエキュメニカル指導者を養成するために、男女の若者すべてに高水準の神学教育を施し、学習困難な地域により多くの奨学金を支給して支援すべきだと結論付けた。

「女性」の分野の参加者は、女性のリーダーシップ能力育成に注力する一方、性的不平等故に悪化しているエイズの問題や性暴力等、様々な性の不平等の問題を丁寧に取り扱わなければならないことを強調した。

「奉仕」のトピックでは、より緊密なエキュメニカル・ネットワークを構築する必要性が提起された。

朴成国 WCC 準備局長は、「テーブルトークの内容は、WCC が今後の方針を決定し、事業を進める上で重要な基礎資料となる」とし「今回の総会で、中東と定義・平和の問題が集中的に浮き彫りにされた。今後、WCC 事業がそちらへと集中することとなるだろう」と説明した。

[釜山=ベクサンヒョン記者 100sh@kmib.co.kr](mailto:100sh@kmib.co.kr)